

令和7年度 第1回 越前市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時	令和7年5月27日(火)14:00～16:00
場 所	越前市役所3階 第3委員会室
議 題	別添「次第」のとおり
出席者	別添「配席図」のとおり

◆開会

発言者	内容
事務局	・越前市では、令和7年度より、市民の皆様により親しみやすく、分かりやすくするために、「デマンド交通」を「予約のりあいタクシー」、「自家用有償旅客運送」を「地域支えあい交通」と表現し、変更していくこととした。越前市地域公共交通計画や本協議会でも新たな表現に変更しているため、ご了承いただきたい。 ・越前市地域公共交通活性化協議会規約第7条第2項の規定により、委員の過半数が出席しており、会議が成立することを報告する。 ・藤原恒裕委員、橋本律子委員が欠席である。また、永田委員が欠席のため、三好氏に代理出席いただく。

◆部長あいさつ

発言者	内容
部長	・日頃より本市の交通行政にご理解、ご協力いただき、感謝申し上げます。 ・昨年度、越前市地域公共交通計画の策定に向けた協議を行い、委員の皆様のご尽力のおかげをもって、令和7年3月に計画を策定することができた。令和7年度からは、計画に基づき事業の協議、実施を行い、本市の公共交通ネットワークの最適化を図っていく。 ・利用者の減少や運転手不足といった課題がある中で、本市においては、既存の公共交通である市民バスのろっさや路線バスと新たな公共交通である予約のりあいタクシーや地域支えあい交通を組み合わせることで、市民の皆様や来訪者の方々の日常生活活動、経済活動を支える持続可能な地域公共交通を構築していきたいと考えている。 ・本日の会議は、地域公共交通会議の担当事務を本協議会へ移管後、初めての会議となる。令和6年度における公共交通の利用状況をはじめ、予約のりあいタクシーの運行エリア拡充や路線バスの見直しについての協議を予定している。今後の方向性についての重要な会議であるため、忌憚のないご意見をいただきたい。

◆会長あいさつ

発言者	内容
会長	・公共交通会議と活性化協議会が1つの組織となり、非常に分かりやすくなった。 ・計画策定という大きな目的で活性化協議会の方は昨年度立ち上がったが、今年度は計画の実現に向けて今起きている実態を、皆様のそれぞれの立場から観察をしていただくことはもちろん、この場でぜひ共有をいただき、検証をしっかりしていきたい。 ・計画の実現に向けて、委員の皆様には忌憚のない、そして前向きで建設的な意見をいただきました。

	い。
--	----

◆報告事項（１）市民バス「のろっさ」の利用状況について

発言者	内容
会長	資料に基づき、事務局より説明
事務局	・P1(2)ルート別について、月尾ルートは廃線のためということになっており、デマンド交通へのシフトが考察できるだろう、ということだが、減少の実数を把握しているか。
会長	・P5 表「地区別登録者及び利用者」にて、地区別の情報を記載している。月尾ルートは、表 3 行目「岡本地区」の方が主な利用者であり、予約のりあいタクシーの利用者が順調に増加していることから、移行していると推察する。
	・実数を把握し、転換の裏付けにする必要がある。

◆報告事項（２）予約のりあいタクシー(デマンド交通実証実験)の利用状況について

発言者	内容
委員	資料に基づき、事務局より説明
事務局	・居住者に占める地区別登録者の割合はどれくらいか、検証すべき。 ・市外利用者は単発利用が想定されるが、登録者498人に対し、利用者112人である。利用しようと登録したが、利用しなかった人がいるということか。数字は実数として出せばよいが、どのように理解すればよいのか、もう少し組み立てていったほうがよいのでは。 ・P6 今後の課題として、「二次交通としての検証」とあるが、どのように検証しようとしているのか、現時点で分かるのであれば、補足してほしい。 ・登録者がすべてという考え方は持っていない。免許返納前に一度使って体験することで、免許返納後の生活を考え、利用することにつなげたい。 ・市外登録者については、観光での利用や市外在住の市職員の登録もある。今後は、登録者と利用者の差を減らす方向で力を入れたい。 ・二次交通の検証については、越前たけふ駅では、昨年度シャトルバスの廃止をしたことで駅間をつなぐものがなくなったこと、新幹線駅の方に、路線バスや市民バスが入っていないこと、そのうえで、デマンド交通が二次交通としてなりうるかどうかを含めて、今後検証していきたいと考えている。
委員	・二次交通について、抽象的でわかりづらい。具体的なものを検討するのであれば、しっかりとやってほしい。 ・デマンド交通の仕組み自体が登録しない限り使用できないのであれば、登録者数は、その地区の居住者のどの程度登録者を増やすことによって、利用者が増えていく、ということを想定して考えていくと、居住者における登録者の割合も一つの検証指標になるのではないか。今後の検証の仕方も含めて、もう少し整理するのも一つの方法では。
会長	・登録者数を伸ばすことも、利用につながるという仮説のもと、次回から、地区人数における登録者の割合、目標値を出してほしい。
事務局	・登録者には、年齢や地区も登録いただいております、把握できる。地区別・年代別に分析が可能なため、きめ細かく行うことで、どこに効果的な周知をしていくかというのをしっかり図っていきたい。
会長	・市外登録者は市職員が多いのか。

事務局	・そうではない。越前たけふ駅からの利用やタケフナイフビレッジ、和紙の里からの観光客利用が多い。
会長	・持続可能なものになるのかどうか、というところも実証実験については、仮説をいくつか立てて、結果を見せて、皆さんからご意見頂く形で進めていければと思う。
委員	・P6 今後の課題について、利用者の方のニーズを拾うと運行曜日の拡充とか停留の拡充あると思うが、行政の財政支出は増えるし、タクシー業者に対する配慮、その辺りのバランスとかどう考えているのか。 ・越前たけふ駅の利用者に予約のりあいタクシーを使ってもらうとのことだが、県外の観光客にも使ってもらうというイメージか。
委員	・事業者としては悩ましい。ドアトゥドアでないことに救いはあるが、あまり拡充されると、良しとは思わない。
会長	・事業者でまとまって議論し、事務局ともぜひまた協議いただきたい。
事務局	・タクシー業者とのバランスについては、タクシー業者と話し合いをするなかで、運行見直しを行う。拡充だけでなく、曜日や時間変更、縮小も含めての協議と考える。 ・越前たけふ駅の公共交通について、予約のりあいタクシーだけでよいのかも含めて検討中である。 ・越前市の観光は、少人数であちこち回る観光が中心となっている。また、企業回が多い。観光や企業にとって、移動をどう提供するか検討する。
委員	・ライドシェアは考えているのか。
事務局	・今は考えていない。
委員	・公共ライドシェアか一般ライドシェアか、様々ある。方法によってはタクシーがつぶれてしまう。
会長	・利用者の属性等含めて、検討していく必要がある。 ・ライドシェアの話はどの地域交通会議でもあまり挙がってこない。次回、現場の声も含めて、事務局からデータが出せるようであれば、検討の材料にできればと思う。
委員	・観光客が予約のりあいタクシーを使う場合、料金はどう考えるのか。県内利用者と差をつけるのか。
事務局	・今後検討していきたい。提案をいただきたい。
会長	・現状は、差がなく利用できる。料金も同じ、登録も同じような形でできる。そこに区別をつけるか、現状のままか。仮説を立て、何を検証しなければならないか、項目を出す必要がある。
委員	・運賃の支払いについて、キャッシュレスは検討しているか。事前 QR コード決済だと、P6 に記載がある「支払いに時間がかかる点」もクリアできるのではないかな。また、キャンセル時の返金もシステムがあると思う。
事務局	・高校生や観光客の利用を伸ばそうと思うと、キャッシュレスの導入を検討中である。初期費用やランニングコストを研究しながら、導入に向けて議論を進める。もっと便利に使っていただくように変更していきたい。
会長	・現在の運行概要は、運行日：月火木土のみ。運行時間：8 時から 17 時である。運行概要や料金設定を含めて、今後検証していく必要がある。丁寧に意見をいただきながら、予算の関係もあると思うので、皆さんに納得していただきながらより良い形を模索できればよい。

◆報告事項（３）地域支えあい交通（自家用有償旅客運送）の利用状況について

発言者	内容
	資料に基づき、事務局より説明
委員	・回数券の販売方法は。
事務局	・定期券について、夏休み等の長期休暇中などどのように考えているのか。
会長	・委託先のサポート団体で予約受付や乗車管理と合わせて、回数券の販売も行っていたらいい。
事務局	・定期券についてはこれからする、しない、も含めて検討していく。具体的には決まっていない。
委員	・坂口・白山ともに地元が主体的に動いている。この提案についても地元から出たのか。
委員	・そうである。
会長	・運輸支局に確認したいが、6月の回数券運用について、手続きは報告でよいのか。
事務局	・申請不要のため問題なし。
会長	・地元からの声があれば聞かせてほしい。
事務局	・白山地区の実証実験においては、熱心に行っていており、グループLINEを活用し、交通の混雑状況の共有や高齢者の乗り降りの際に台を置くなど課題を見つけながら、ドライバーさん同士で解決している。高校生の利用について、学校の協力を経て、降車場所を学校敷地内に置いているところもある。利用者からは、帰りの運行を望む声もあり、前向きに検討したい、と地元から声をいただいている。
会長	・新しい交通の支え方がうまく走り出した。ここから持続可能なものにしていくことがポイントである。世代に縛られることなく、いろいろな世代に拡充するよう助言していただければと思う。

◆報告事項（４）越前たけふ駅及び駅東 P&R 駐車場利用動向調査結果について

発言者	内容
	資料に基づき、事務局より説明
会長	・拡充する駐車場は暫定か。
事務局	・暫定という扱いではあるが、舗装・線引きを行い、運用を目指している。
	・旧幹線排水路の跡地を利用する。P23図の赤のまっすぐな部分はお盆明けから9月までに80台、曲がっている部分は年内に20台整備予定である。
委員	・第1・第2駐車場の融雪装置は年内を予定している。
事務局	・P19 2-③ 越前たけふ駅までの交通手段が送迎とあるが、帰りも調査しているのか。
委員	・行きのみ。
会長	・帰りも調査してほしい。割合が変わってくる。
事務局	・次回調査時は、帰りはどう帰る予定か尋ねてほしい。
委員	・参考にする。
事務局	・他県ナンバーが多い印象だが、割合を調査し、把握しているか。
委員	・今回の調査では、どこの県のナンバーか、県外のナンバーか県内のナンバーか、というのは調査項目には入っていない。今後の調査の検討材料にしたい。
事務局	・県外ナンバーの利用者はどのような使い方をしているのか、次回調査してほしい。
	・越前たけふ駅駐車場へ車で各自が乗ってきて、そこで車を置いて、相乗りという形で高速を使って、という噂を聞く。市としてはどう把握しているか。
	・そういったご意見を頂いていることは事実だが、今回の調査で、そこまで多くの乗合での利用はな

会長	かった、適正に利用されていた、と分析している。
事務局	・県外ナンバーの利用について、道の駅の利用も考えられる。
会長	・越前市は他県の派遣の方も多く、原因が掴みかねる状況である。
委員	・調査の中で、分析が可能であれば、意図しない使われ方をしているかどうか検証が必要である。
	・駐車場有料化に伴い、いろいろ課題がでてくる。仮に有料化にした場合、新設する駐車場の料金設定を慎重に検討する必要がある。
会長	・有料化については、利用者の声を丁寧に拾いあげて検討しなければいけない。
委員	・調査結果を踏まえてどのように理解するのか。県外の方 11%は多分、送迎とかタクシーで、自家用車というのはあまり考えにくい。
	・P19 越前たけふ駅までの交通手段について、自家用車の割合が多いから駐車場区画を増やすという考え方もあるが、バスなどの公共交通手段が不十分だから、自家用車や送迎の割合が高いという捉え方をすると、果たしてそのまま政策的なものを進めるのが正しいかどうかは分からない。
	・人口減少において、越前市でも交流人口の拡大、県外利用者11.3%を増やす、ということが政策的に非常に大事な施策ではないか。
会長	・調査結果の利用の仕方を慎重に行わなければならない。
	・ご指摘のとおりで、転換の可能性も検証していかなければならないのだろうと思う。駐車場を増やすことが必ずしも正解ではなく、駐車場拡充以外の方法、ネットワークをどうしたらいいかということも合わせて意見をいただくと、今後、いろんな可能性を検討していけるかと思う。
事務局	・駅前開発に合わせて駐車場の有料化というところが視野に入ってきているが、交通課としては送迎利用が増えたことを問題視している。二次交通を検討しているが、行政だけの考えでは立ち行かない部分もあるため、委員の皆様から意見をいただきたい。
委員	・仮説であるが、福井市や坂井市からの利用者は、長期間利用時に駐車場料金削減のため無料の越前たけふ駅駐車場を利用しているのではないかと。しわ寄せを越前市民や丹南市町が受けるのはおかしいのではないかと思う。そうしたところも検討してほしい。
事務局	・アンケート調査の中で「有料になったら利用するか」という質問に対し、「いいえ」と回答する人もいた。やはり無料なので、高速を使ってでも越前たけふ駅に来て、駐車場料金を節約したいという長期利用者は一定数いると考える。
会長	・検証をどう行い、どう整理していくか、考えていかなければならない。この先もこういったデータを出しながら、皆さんからご意見いただいて、実際どのような方向性で進めていくかというところの検討をこの会議でもしていきたいと思う。

◆協議事項（1）越前市地域公共交通活性化協議会について

発言者	内容
	① 規約等の新設及び一部改正について 資料に基づき、事務局より説明 原案のとおり承認 ② 副会長及び監査委員の選出 委員より会長に一任の提案あり ⇒ 会長より、副会長について、藤原委員を選出する旨の提案 ⇒ 全会一致で承認

	規約第14条に基づき、会長より、監査委員として、三屋委員、中出委員を指名 ③ 令和 6 年度収支決算報告 資料に基づき、事務局より説明 監査意見報告 三屋委員(大館委員の後任)より、監査結果について、報告 ④ 令和 7 年度事業計画(案)および収支予算(案) 資料に基づき、事務局より説明 ③及び④一括して原案のとおり承認
--	---

◆協議事項（2）予約のりあいタクシーのエリア拡充について

発言者	内容
委員 事務局	資料に基づき、事務局より説明
会長	・P17 のAエリア、Bエリアはどういうことか ・エリア内、エリア間の移動が可能である。エリア間の移動は2乗車分の運賃が発生する。ただし、共通停留所を公共施設や駅を中心に、越前たけふ駅、ハピライン武生駅、たけふ新駅、武生中央公園の 4 箇所設けている。その共通停留所まではどちらのエリアからも 1 乗車で行けるような運用としている。 ・高齢化率が落ち着いている国高、吉野、大虫地区も町内ごとに見ると、高齢化率が高い。中心エリアは市民バスを構築し直しつつ、郊外エリアは予約のりあいタクシーのエリアを広げていく、ということ。 原案のとおり承認

◆協議事項（3）路線バスの運行見直しについて

発言者	内容
会長 委員	資料に基づき、事務局より説明 ・本日は、見直しの方針とスケジュールを承認いただく。 ・神山地区では予約のりあいタクシーの周知が進んでないように感じる。独居の高齢者で、路線バスを買い物等で利用している方がいるが、予約のりあいタクシーのことを皆さんに分かっていただけるようにしてほしい。
会長 事務局	・路線バス乗り込み調査ではどのような利用だったかお分かりだと思うが、いかがか。 ・神山地区では、朝の便を通勤で使われている方もいたため、今後しっかり、この予約タクシー利用方法や周知も合わせて図っていきたいと考えている。引き続き地元の方にもお声掛けし、説明していきたい。

委員	・実感として、登録者が少ないと感じる。周知をお願いする。
委員	・3月に策定した「越前市地域公共交通計画」では、入谷線や白山線は支線として位置づけられている。3月に作った半年後の10月が変わってくる。計画に沿って物事を進めるのであれば、その方向性が合っていない。だから、見直し、その手法を含めて、計画で位置づけた将来像を達成する方向で考えていくというのが必要ではないか。
事務局	・計画には位置付けており、市としても残したいという思いはあった。
福井鉄道(株)	・福井鉄道(株)より、説明員として参加いただいている。説明をお願いしたい。
説明員	・路線バスの減便・廃線は当社から提案させていただいた。運転手不足、去年はかなり厳しい状況であった。必要な運転士は81名であるが、令和7年3月末時点では76名しかおらず、まだ欠員が5名出ている状態である。
	・運転士不足のため廃止してほしいというわけではなく、代替をどうするか、ということを引き続き継続協議させていただき、今回提案させていただいた。
委員	・公共交通計画に軸と位置づけられている市の交通ネットワークとして必要ということであれば、それに対する対応策が必要ではないか。
会長	・地域公共交通計画 P57 に支線として位置づけている路線を廃止するのであれば、何らかの説明が必要なのではないか。公共交通計画の中で、どう読み替えるか、対応を図るのか、次回説明が必要である。
事務局	・計画の P41 に広域路線バスの運行支援と再編というところがある。白山線・入谷線ともに見直し継続路線として、福井鉄道さんと協議を継続してきたが、計画策定の段階では方針を確定することができなかった。概要の個所にも、減便や廃線も含めた見直し、という文言も入れているため、計画上はここが根拠として市の方針を表現している。
会長	・公共交通計画の中で、どう読み替えるのかは、次回説明を求める。
委員	・例えば資料15P の12月17日火曜日は、福祉バスの日という説明があったが、ここが入谷線の利用が多い日だとすると、それを予約のりあいタクシーでカバーすることは可能か。料金的に福祉バスだと100円ということだったが、予約のりあいタクシーで高齢者だと200円。そういったところの理解を得られるのか、市としてはどう考えているのか。
事務局	・入谷線の特徴としては、9時台・10時台に味真野地区から市の中心に移動し、買い物等を行い、13時台に帰るという使い方が主であった。予約のりあいタクシーで代替可能であると考え。周知を行い、福祉バス運行日以外の曜日も利用してもらい、転換を進めたい。
委員	・予約のりあいタクシーで台数的にカバーできるという読みであると捉えればよい。また、金額面も理解してもらえるのか。
事務局	・路線バス利用が集中している福祉バス運行日、火、木、土曜以外に分散すれば、十分対応可能だと考える。金額についても、予約のりあいタクシーの利便性は、やはりバスより上がるため、料金も100円から200円に上がるというところは説明し、理解していただけるよう周知を行う。
会長	・今後また方向性に関して、現場や議会の方からもご意見いただきながら、7月にこの協議会で再度確認をいただくという形の流れになる。
原案のとおり承認	

◆その他、意見・質問

発言者	内容
会長	・地域鉄道についても、全体のネットワークという位置づけの中では、データも見ていきたいので、次回データを提示していただきたい。
事務局	・(株)ハピラインふくいや福井鉄道(株)に、利用者等のデータ提供について、協力を求める。
委員	・承知した。
事務局	・次回は、令和 7 年 7 月 28 日(月)16 時から開催する。